

2025年度

事業報告書

事業報告の附属明細書

公益財団法人かわさき市民活動センター

目次

事業報告書

I 当法人の現況に関する事項	4
1 事業の経過及びその成果	4
2 直前3事業年度の財産及び損益の状況	4
3 主要な事業内容	4
4 重要な契約に関する事項	5
5 職員に関する事項	5
6 役員会等に関する事項	5
II 役員等に関する事項	8
1 理事	8
2 監事	8
3 評議員	9
4 役員等の報酬	9

事業報告の附属明細書

I 役員以外の法人等の業務執行理事等との重要な兼職の状況	10
II 事業の実施状況について補足すべき重要事項	10
1 市民活動推進事業	10
2 青少年健全育成事業	21
3 法人の運営	46

事業報告書

(2025年4月1日から2026年3月31日まで)

はじめに

当財団は、2025年度においても法人として確実な組織運営と健全な財政運営に基づいた運営を進めながら「市民活動推進事業」及び「青少年健全育成事業」を2本の柱として、地域の関係団体や関係機関と連携した事業展開を図ってまいりました。

「市民活動推進事業」では、①「誰もが気軽に活用できるフリースペース」をより一層実現するため、レイアウトの再検討や運用ルールの改善など、利用者目線に立った環境整備を進めました。また、②若年層や企業などの多様なステークホルダーと連携する取組として、「ごえん楽市」では、専修大学生による「市民活動診断～自分に合った市民活動を探してみよう～」の実施、ジャパニクス株式会社 J-college の協力による「こぶんキッズコーナー」を展開した他、③「ごえん楽市」に参画する市民活動団体と共に企画を0ベースから共に考え運営する新たな試みに着手し、地域における新たな協働モデルの創出に取り組みました。今後も、市民活動の新たな芽吹きを生み出す視点を大切にしながら、多様な主体との協働・連携を進め中間支援組織としてのさらなるバージョンアップを目指してまいります。

「青少年健全育成事業」では、こども文化センター41館及びわくわくプラザ77校について、川崎市の指定管理者として安全・安心で安定した運営を行うとともに、「地域の拠点」としてのこども文化センターの存在価値を高めるべく「アウトリーチ事業」に力を入れてまいりました。特に、地域包括ケア推進に寄与する具体的な連携事業が展開された事はこれまでにない動きであり、地域住民から「こ文は誰でも行っていい場所」との認知が広がり始めていることは特筆すべき成果です。今後は市民活動推進事業とのさらなる融合を図り、当財団ならではの相乗効果を地域に発現していきたいと考えます。

また、当財団は2024年度から、財団としてのビジョンの明確化と業務効率化を推進する「変革プロジェクト」を職員あげて推進しています。これは、昨今の社会状況及び当財団が担う公益事業を取り巻く状況の変化に対応できるよう、柔軟かつ開かれた組織体の構築をめざすものです。2025年度は、職員有志による5つの検討部会を立ち上げ、各種検討を進めてまいりました。その一つの成果として、今後10年間のビジョンや行動指針を示す「中長期基本計画素案(2026～2035)」の策定に至ったことは財団としての大きな一歩です。今後も職員の力を結集し、地域から信頼される自立した財団を目指してまいります。

I 当法人の現況に関する事項

1 事業の経過及びその成果

(単位：千円)

事業別【経常収益】	予算額	執行済額	執行率 (%)
市民活動推進事業	100,067	100,015	99.9%
青少年健全育成事業	3,084,948	3,125,134	101.3%

※千円未満は四捨五入

2 直前3事業年度の財産及び損益の状況

(単位：千円)

区 分	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度 (当事業年度)
経常収益	3,570,874	3,621,550	3,200,226	3,281,152
当期経常収益費用差額	△22,444	△38,576	719	39,465
純資産合計	269,072	230,496	231,215	275,598

※千円未満は四捨五入

3 主要な事業内容

事業名	主要な事業内容
市民活動推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動に関する情報の収集・提供及び啓発事業 ・市民活動に関する調査・研究事業 ・市民活動に関する人材育成及び相談事業 ・市民活動の促進・支援事業 ・関係機関・関係団体等との連携 ・その他目的を達成するために必要な事業（理事会又は評議員会で決議する事業）
青少年健全育成事業	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年の健全育成に関する事業 ・青少年施設の管理運営の受託 ・関係機関・関係団体等との連携 ・その他目的を達成するために必要な事業（理事会又は評議員会で決議する事業）

4 重要な契約に関する事項

契約年月日	相手方	契約金額	契約期間	契約の概要
2025年4月1日	川崎市	2,668,418,603円	2025.4.1 から 2026.3.31 まで	川崎市こども文化センター15 グループ 41 館の 指定管理業務の年度協定書

5 職員に関する事項

(2026年3月31日現在)

職名等	氏名	就任年月日	担当事務	備考
事務局長	八木 一志	2025.4.1	事務局の総括	重要な使用人
総務課長	唐木田 真	2025.4.1	課 の 総 括	
市民活動推進課長	中村 正信	2025.4.1	〃	
青少年事業課長	岩堀 誠	2025.4.1	〃	
青少年事業課主幹	伊藤 知代	2025.4.1	エリアマネージャーの総括	
その他の職員（派遣職員を除く。）				1,686人

6 役員会等に関する事項

(1) 理事会

会議名	開催年月日	議事事項	会議の結果
第1回	2025年 6月3日	決議事項 議案第1号 2024年度事業報告書及び決算 議案第2号 2025年度6月補正予算 議案第3号 2025年度第2回評議員会（定例評議員会） の開催について 報告事項 理事長及び常務理事の職務の執行状況の報告 報告第1号 基本協定書等の締結	可決 可決 可決 了承 了承

<p>第 2 回</p>	<p>2025 年 11 月 25 日</p>	<p>決議事項 議案第 1 号 定款の一部変更について 議案第 2 号 収益事業の実施について 議案第 3 号 公益目的事業の会計区分変更について 議案第 4 号 特定資産の取り崩しについて 議案第 5 号 2025 年度第 2 回評議員会の開催について</p> <p>報告事項 理事長及び常務理事の職務の執行状況の報告 報告第 1 号 大師コミュニティセンター指定管理業務の受託について 報告第 2 号 2025 年度上半期の事業等 報告第 3 号 中長期計画策定の中間報告</p>	<p>可決 可決 可決 可決 可決</p> <p>了承 了承 了承</p>
<p>第 3 回</p>	<p>2026 年 3 月 9 日</p>	<p>決議事項 議案第 1 号 組織改正について 議案第 2 号 規則改正について 議案第 3 号 2026 年度事業計画について 議案第 4 号 2026 年度収支予算等について 議案第 5 号 役員賠償責任保険契約の締結について 議案第 6 号 2026 年度第 1 回評議員会の開催について</p> <p>報告事項 理事長及び常務理事の職務の執行状況の報告 報告第 1 号 2025 年度第 1 回及び第 2 回資金運用委員会の結果報告について 報告第 2 号 職員採用選考及び昇任試験の結果について 報告第 3 号 寄贈品の受け入れについて 報告第 4 号 中長期基本計画(素案)について</p>	<p>可決 可決 可決 可決 可決 可決</p> <p>了承 了承 了承 了承</p>

(2) 評議員会

会議名	開催年月日	議事事項	会議の結果
第1回	2025年 4月14日	決議事項 議案第1号 規則の改正（役員及び評議員の報酬並びに費用の額の決定及びその規則の改廃） 報告事項 報告第1号 規則の改正 報告第2号 2025年度事業計画書 報告第3号 2025年度収支予算等 報告第4号 役員等賠償責任保険の契約締結 報告第5号 重要な使用人の選任及び解任 報告第6号 2024年度第1回及び第2回資金運用委員会の結果報告 報告第7号 職員採用選考及び昇任試験の結果	可決 了承 了承 了承 了承 了承 了承
第2回	2025年 6月20日 (定時評議員会)	決議事項 議案第1号 2024年度事業報告及び決算 報告事項 報告第1号 2025年度6月補正予算 報告第2号 基本協定書等の締結	可決 了承 了承
第3回	2025年 12月8日	決議事項 議案第1号 定款の一部変更について 報告事項 報告第1号 大師コミュニティセンター指定管理業務の受託について 報告第2号 収益事業の実施について 報告第3号 公益目的事業の会計区分変更について 報告第4号 特定資産の取り崩しについて 報告第5号 2025年度上半期の事業等 報告第6号 中長期計画策定の中間報告	可決 了承 了承 了承 了承 了承

II 役員等に関する事項

1 理事

(2026年3月31日現在)

役職名	氏名	任期	常勤 非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
代表理事 (理事長)	竹迫 和代	2024.6.21 から 2026.6 定時評議員会の終結の時まで	常勤	有	参画はぐくみ工房 代表
副理事長	石橋 明彦	〃	非常勤	〃	川崎市青少年育成連盟 評議員
副理事長	岡本 克彦	〃	〃	〃	一般社団法人地球社会レジリエンスセンター 理事
代表理事 (常務理事)	阿部 浩二	〃	常勤	〃	前 川崎市役所こども未来局長
理事	相沢 滋子	〃	非常勤	〃	川崎市PTA連絡協議会 会計
〃	石井 宏之	〃	〃	〃	公益財団法人 川崎市生涯学習財団 理事長
〃	小倉 敬子	〃	〃	〃	文化パートナーズかわさき 代表
〃	加藤 亨	〃	〃	〃	川崎市全町内会連合会 理事
〃	久々津 裕敏	〃	〃	無	社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会 事務局長
〃	土屋 勝	〃	〃	有	川崎市レクリエーション連盟 会長

2 監事

役職名	氏名	任期	常勤 非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
監事	池野 光弘	2024.6.21 から 2026.6 定時評議員会の終結の時まで	非常勤	有	税理士
〃	岩森 耕太郎	〃	〃	〃	特定非営利活動法人 かわさきMOVEARTOO隊 理事

3 評議員

役職名	氏名	任期	常勤 非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
評議員	金子 督	2024.6.21 から 2026.6 定時評議員会の終結の時まで	非常勤	有	一般社団法人 川崎市子ども会連盟 常務理事
〃	齊藤 準	2022.6.23 から 2026.6 定時評議員会の終結の時まで	〃	〃	特定非営利活動法人 川崎市視覚障害者福祉協会理事
〃	阪本 智子	〃	〃	〃	元川崎市立小学校長
〃	菅原 陽子	〃	〃	〃	夏菟太鼓 代表
〃	鈴木 浩之	〃	〃	〃	元川崎市立中学校長
〃	竹井 斎	〃	〃	〃	特定非営利活動法人 アクト川崎 理事
〃	橘 たか	〃	〃	〃	合同会社橘 代表
〃	永津 英二郎	〃	〃	〃	税理士
〃	番匠 一雅	〃	〃	〃	田園調布学園大学教授
〃	前田 成東	〃	〃	〃	東海大学教授

4 役員等の報酬等

区分	人数	報酬等の総額	備考
理事	10人	8,400 千円	常勤及び非常勤
監事	2人	112 千円	非常勤
評議員	10人	208 千円	非常勤
合計	22人	8,720 千円	

注1：理事、監事及び評議員の報酬額は「役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規則」において定められている。

注2：評議員の報酬の限度額は、定款第15条において、毎年度総額30万円を超えないものとされている。

事業報告の附属明細書 ‹‹2025年度事業報告›› (2025年4月1日～2026年3月31日)

I 役員の他の法人等の業務執行理事等との重要な兼職の状況

役員の主な他の法人等の代表状況等については、8頁 事業報告「II 役員等に関する事項」のとおりです。

II 事業の実施状況について補足すべき重要な事項【事業の概要】

1 市民活動推進事業

全市・全領域の市民活動団体の中間支援組織として、これまでの実績と知見を活かし、市民活動団体への支援に取り組みました。今年度上半期の主な取組結果は、次のとおりです。

(1) 活動拠点施設運営事業

今年度上半期の利用登録団体数は、新規 37 団体、計 977 団体でした。

施設・設備名	2018年度(コロナ禍前)		2024年度		2025年度		前年度比較(増減)	
	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数
会議室A	589 団体	6,200 人	505 団体	4,389 人	522 団体	4,412 人	17 団体	23 人
会議室B	532 団体	4,969 人	479 団体	3,748 人	478 団体	3,773 人	△1 団体	25 人
印刷室	573 団体	1,163 人	607 団体	987 人	599 団体	1,008 人	△8 団体	21 人
フリースペース通常	4,690 団体	20,091 人	2,585 団体・個人	10,407 人	6,284 団体・個人	17,480 人	3,699 団体・個人	7,073 人
フリースペースイベント	-	-	4 団体	115 人	12 団体	299 人	8 団体	184 人
パソコン(2台)	427 団体・個人	715 人	342 団体・個人	381 人	308 団体・個人	408 人	△34 団体・個人	27 人
ロッカー・大(90台) 小(9台)	大89台・小8台		大83台・小9台		大83台・小9台		大0台・小0台	
レターケース(54台)	43台		43台		49台		6台	
施設・設備等利用合計	6,811 団体・個人	33,138 人	4,522 団体・個人	20,027 人	8,203 団体・個人	27,380 人	3,681 団体・個人	7,353 人

フリースペースにおいては少人数用テーブルの拡充やレイアウト変更、団体イベント利用への貸し出しなど利便性向上を図ることで、さらなる利用者増を目指しました。

フリースペース利用者（6,284 団体・個人）の内訳は、団体 45%（登録団体 41%、未登録団体 4%）、個人 55%（学生 29%、学生以外 26%）となっています。

市民活動ブース利用団体

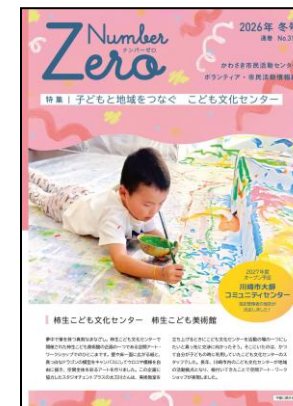
ブース 1	ブース 2	ブース 3	ブース 4	ブース 5
(一社) ICERC Japan アイサーチ・ジャパン	川崎ハイキングクラブ	Women's body labo	(一社) ランドヌ東京	(特非) かわさき こども食堂ネットワーク

(2) 情報提供・啓発事業

ア 情報紙「ナンバーゼロ」の発行

市民活動団体に有益な情報を提供するため、季刊 2,500 部を発行し、関係団体、市内公共機関等に配布しました。また、希望があった利用登録団体へ郵送しました。

毎号、市民活動にまつわる旬の話題を紹介する特集記事のほか、最新情報を掲載し市民活動団体の運営に役立つ内容となっています。また、こども文化センターで活動する団体の様子を職員がレポートする「こぶんた・わくりんが行く！」を連載しています。



ナンバーゼロ冬号

イ 神奈川新聞へのコラム連載

市民の目線で市民活動団体を紹介することを目的に、12 人の市民記者の取材・執筆による記事を、「市民発 地域をつくる人・活動」と題したコラムとして、毎月第 2・4 木曜日の神奈川新聞に 24 回掲載しました。

ウ 市民活動ポータルサイト「応援ナビかわさき」の運営

4 月からリニューアル公開し、川崎市内における市民活動のポータルサイトとして役立つよう、イベント・講座、ボランティア募集、団体情報、民間助成金等市民活動に関する最新情報を迅速に掲載するとともに、コンテンツの充実に努めました。また、新着情報などをまとめたメールマガジンを、メルマガ会員（246 人）あてに配信しました。

エ 生徒・学生の夏休みボランティア募集情報のホームページ掲載

市内のボランティア募集情報について川崎市社会福祉協議会と共同で調査し、116 団体・施設の募集情報をポータルサイト「応援ナビかわさき」に掲載しました。また、夏休み期間中の、主に生徒・学生を対象とした 52 団体・施設のボランティア募集情報を、6 月 30 日（月）から 8 月 31 日（日）までポータルサイト「応援ナビかわさき」及び「Yahoo!ボランティア」に掲載しました。その結果、72 人がボランティア活動に参加しました（受入先アンケートによる；回答率 98%）。

オ 市民活動推進事業ウェブサイトの運営

市民活動推進事業に関する最新の情報や、センター施設の利用状況等を随時更新しました。また、事業の情報は Facebook や Instagram、YouTube などの SNS でも発信しました。

カ ラジオ出演

かわさき FM で毎月第 3 火曜日に放送している「かわさき ホット☆スタジオ」にセンター職員が出演し、市民活動推進事業について宣伝及び情報提供を行いました。



かわさき FM へのラジオ出演

(3) 活動促進事業

ア ごえん楽市の開催

市民に広く市民活動を伝える場、団体の交流の場として、11 月 15 日（土）に中原市民館全館、かわさき市民活動センター及びららテラス 武蔵小杉（施設外周部）で開催しました。当日は 67 団体（新規 19 団体）が出展し、過去最多となる約 2,500 人の来場がありました。

また、主催者企画として専修大学問題解決型チャレンジプログラムの学生による「市民活動診断～自分に合った市民活動を探してみよう～」のほか、ジャパニアス株式会社 J-college の協力による「こぶんキッズコーナー」を実施しました。



閉会式での集合写真

イ ごえんカフェ&ミニカフェの開催

団体や企業などが分野を越えて交流し、新たな協働・連携の芽が生まれる場として、ごえんカフェをフリースペースで 2 月 21 日

(土)に開催し44人の参加がありました。また、活動を始めたばかりの団体が、必要な情報やスキルを身に付け、活動を広げることなどを目的として、ミニカフェを8月23日(土)午後にフリースペースで開催し、5人の参加がありました。

ウ 大学と市民活動団体との連携・協働の支援

専修大学ネットワーク情報学部の授業で学生たちが市民活動団体(8団体)の広報媒体(リーフレット、動画、HP)を団体と一緒に制作する取組を支援しました。また1月26日(月)には、学生がその成果を発表する「かわさきNPO映像交流会」をフリースペースで開催しました。

エ つながるマルシェの開催

市民活動団体などが市民と交流し活動をPRする機会として、ららテラス 武蔵小杉(施設外周部)で3月14日(土)に開催しました。当センターのほか7団体が出展し、ゲームや体験ワークショップ、販売を行い、親子連れなど来場者は約1,300人と賑わいました。



マルシェに登場したわくりん

(4) 研修・人材育成事業

ア パワーアップセミナーの開催

市民活動団体の運営スタッフの資質向上を目的として、団体の課題解決とスキルアップに係るテーマで11回開催し、延べ165人が受講しました。また、受講者満足度は96%でした(アンケート回収率は92%)。各回の内容や参加数等については【18頁;別表1】に記載しています。

イ 市民記者養成講座の開催

神奈川新聞社の現役社員や元川崎総局長、市民記者(現役)を講師に招へいし、記事の取材や編集方法等についての基礎講座を1月14日(水)から2月25日(水)までの間に5回開催しました。16人の受講者のうち、10人が2026年度からの新たな市民記者として登録しました。

(5) 相談事業

ア 職員による市民活動相談の実施

ボランティア活動を始めたいという相談、団体の設立や運営に関する相談、企業からの社会貢献活動の相談など、市民活動全般に

関わる相談をセンター職員が対応し、年間で 46 件の相談がありました。

イ NPO向け専門相談の実施

土業のワンストップ体制によるNPO向け専門相談の実績は以下のとおりです。

区分	件数	共催
会計相談	2 件	東京地方税理士会
法務相談	2 件	よろず相談会（行政書士による任意団体）
	3 件	神奈川青年司法書士協議会
法律相談	1 件	かわさきリーガルサポートひまわり（弁護士による任意団体）

(6) 連絡調整事業

ア 市・区の市民活動支援担当者との定期的情報交換会等の開催

川崎市の所管課である市民文化局市民活動推進課との情報共有及び連携推進に向けた検討を行うため、定例会を 4 回開催しました。

イ 中間支援ネットワーク会議の開催

市内の市民活動に係る中間支援ネットワーク会議を 7 月 17 日（木）、3 月 10 日（火）にフリースペースで開催し、それぞれ 6 機関（+オブザーバーとして川崎市所管課）が参加し、情報交換と協働・連携に向けての話し合いを行いました。

ウ 川崎市社会福祉協議会との連絡調整会議の開催

5 月 1 日（木）に市社会福祉協議会・ボランティア活動振興センターとの連絡調整会議を開催し、事業計画書についての情報交換及び共催事業についての調整等を行いました。

(7) 職員等派遣事業

各団体の要請に基づき、職員を 6 回講師等として派遣しました。派遣先の主催者や対象者等については【19 頁；別表 2】に記載しています。

(8) かわさき市民公益活動助成金運営事業

2025年度かわさき市民公益活動助成金運営事業に関わる審査等の実施状況は、次のとおりです。

募集期間	<ul style="list-style-type: none"> ・2024年11月25日～2025年1月21日 ※ステップアップ 30助成およびステップアップ 100・200助成（初回） ・2024年11月25日～2025年2月21日 ※スタートアップ助成およびステップアップ 100・200助成（2～3回目）
審査委員会	第一次審査（書類審査） 2月19日（ステップ30）、20日（ステップ100・200）、3月25日（スタート） 第二次審査（公開プレゼン） 3月29日、30日
審査結果	<ul style="list-style-type: none"> ・スタートアップ助成 申請 27団体 交付 27団体 交付金額 2,391,354円 ・ステップアップ助成（30・100・200） 申請 54団体 交付 33団体 交付金額 13,343,493円
交付総額	15,734,847円（内訳＝川崎市：12,409,509円・河川財団：3,325,338円）

また、2024年度助成金交付団体の公開事業報告会を5月11日（日）に実施しました。



公開プレゼンテーション



公開事業報告会

(9) 川崎市からの受託事業

ア 川崎市市民活動（ボランティア活動）補償制度の窓口業務

川崎市から、補償制度の受付および手続き業務を受託しました。2025年度の申請件数・支払済額等の状況は、次のとおりです。

申請件数	支払済件数	支払済額	前年度申請に係る支払済額
17件	7件	428,803円	1,512,743円

イ 「つなぐっとKAWASAKI」管理・運営事業

川崎市から、「つなぐっとKAWASAKI」のコンテンツ情報の更新等を行う管理・運営業務を受託しました。

各コンテンツページの情報更新のほか、「まちレポ」への記事を24本掲載、「かわさきカメラ探訪」「食がつつなく街と人」を各10本ずつ掲載するなど情報の拡充に努めました。

ウ 中原区子育て支援者養成事業

中原区から、地域の子育て支援体制の拡充のために実施している「中原区子育て支援者養成講座」を受託しました。12月16日（火）から2月17日（火）までの間に5回、センター会議室ほかで開催し、延べ67人の受講者がありました。また、3月3日（火）には子育て支援者養成講座交流会を開催し、受講者・子育て支援団体合わせて15人が参加しました。

エ 多摩区子育て支援者養成事業

多摩区から、地域のさまざまな子育て支援活動・多世代交流活動で活躍できる支援者の養成を行う「多摩区子育て支援者養成講座」を受託しました。12月5日（金）から19日（金）までの間に3回、多摩区保育・子育て総合支援センター及び中野島こども文化センターで開催し、延べ24人の受講者がありました。

(10) 職員研修

職員の資質向上や知識習得等を目的に、市内外で開催されるセミナーや交流会などに職員を20回、延べ45人派遣しました。派遣した研修の内容等については【19頁；別表3】に記載しています。

(11) 自主財源確保の取り組み

ア 賛助会員の確保

2025年度の賛助会費の実績は、次のとおりです。

種別	会費 (1口)	2023年度			2024年度			2025年度		
		会員数	口数	賛助総額	会員数	口数	賛助総額	会員数	口数	賛助総額
個人会員	1,000円	46人	230口	230,000円	26人	101口	101,000円	23人	101口	101,000円
団体会員	5,000円	18団体	20口	100,000円	16団体	17口	85,000円	14団体	16口	80,000円
合計		64人・団体	250口	330,000円	42人・団体	118口	186,000円	37人・団体	117口	181,000円

イ ボランティア・市民活動募金

募金箱を当センター窓口やご協力を得た市内事業者各店舗へ設置しています。募金箱その他を合わせて、2025年度は48,955円の寄付がありました（前年度31,442円）。また、個人・団体から43,514円の寄付金がありました。

ウ 不用品買い取り額の寄付

ブックオフオンラインストアを通じて不用品の買い取り金額がセンターへ送金される仕組み（「キモチと。」）によって120,431円の寄付（前年度37,721円）があったほか、使用済み切手や未使用テレホンカードを売却し15,200円の収入がありました。

(12) その他

ア 後援名義の使用許可

申請のあった13団体に対して、後援名義の使用を許可しました。

イ 表彰推薦

以下の表彰に推薦を行い、受賞が決定しました。

表 彰	推 薦
公益財団法人社会貢献支援財団 第63回社会貢献者表彰	カラカサン～移住女性のためのエンパワメントセンター

【別表1】パワーアップセミナー

開催日	内 容 (敬称略)		参加数	開催場所
第1回 5月31日	テーマ	今さら聞けない SNS の活用法	26人	センター会議室
	講師	秋本創 (NPO 法人埼玉情報センター事務局次長)		
第2回 6月28日	テーマ	NPO の新しい右腕。初心者向き ChatGPT 活用講座	22人	センター会議室
	講師	安藤昭太 (株式会社ふえん代表取締役)		
第3回 7月26日	テーマ	コミュニティと居場所について考える	20人	センター会議室
	講師	呉哲煥 (NPO 法人 CR ファクトリー代表理事)		
第4回 9月29日	テーマ	稗原ゆ〜ず連絡会の実践から学ぶ 地域連携のこれから	18人	センター会議室
	講師	川田和子 (稗原ゆ〜ず連絡会代表)		
第5・6回 10月25日 11月29日	テーマ	団体の価値を伝えるブランディングを学び仲間と活動に活かす (全2回)	8人 12人	センター会議室
	講師	岡本克彦 (こすぎの大学)		
第7・9回 12月4日 12月11日	テーマ	2回で学べる NPO 法人の会計事務の基本 (全2回) ※川崎市共催	14人 12人	オンライン
	講師	渡邊由美子 (税理士)		
第8回 12月6日	テーマ	つながりで広がる支援の輪 ～資金だけじゃない、NPO のための“資源の集め方” ※川崎市共催	11人	センター会議室
	講師	橘たか (合同会社橘代表、武蔵野大学大学院非常勤講師)		
第10回 26年1月 22日	テーマ	NPO 法人の労務とコンプライアンス ※川崎市共催	8人	オンライン
	講師	大西浩 (特定社会保険労務士)		
第11回 2月13日	テーマ	ツールが増えた今こそ、広報の基本を！ ※川崎市社会福祉協議会共催	14人	センター会議室
	講師	船本由佳 (認定 NPO 法人森ノオト)		

【別表2】職員派遣状況

開催日	主催者	テーマ	対象	開催場所
4月～ 26年3月	川崎市総務企画局コンプライアンス推進・行政情報管理部公文書館	川崎市史市制100周年記念版編集懇談会委員	行政	市総合自治会館ほか
8月～ 26年2月	一般社団法人ソーシャルコーディネートかながわ	令和7年度NPOの組織基盤強化のための伴走支援事業	団体	市民活動センター他
10月2日	健康福祉局保健医療施策部動物愛護センター	かわさき犬・猫愛護ボランティア講習会	市民	川崎市動物愛護センター
10月30日	専修大学ネットワーク情報学部	大学連携事業中間発表会	大学生	専修大学
26年1月25日	川崎市市民文化局コミュニティ推進部協働・連携推進課	7区SDC交流会 テーブルファシリテーション	SDC運営者、区役所担当者、ワカモノ未来プロジェクト参加者ほか	フリースペース
2月3日・ 2月24日	公益財団法人藤沢市みらい創造財団	チラシ作成スキルアップ研修	広報活動に関わる職員	秩父宮記念体育館、藤沢青少年会館
2月13日	川崎市健康福祉局高齢者在宅サービス課	2025年度シニアライフ講演会	市民	川崎市多摩市民館大ホール

【別表3】職員研修

開催日	主催者	内容	開催場所
4月6日	株式会社ソノリテ	オープンソノリテ会 子ども支援をとりまく環境～最新の公的施策とNPO活動の課題	オンライン
5月28日	(福)神奈川県社会福祉協議会	令和7年度ボランティアコーディネーター研修【基本コース】	かながわ県民センター12階第2会議室
5月28日	川崎区役所まちづくり推進部地域振興課	川崎区企業市民交流事業推進委員会 研修会	富士見公園 FUJIMIX
6月9日	一般社団法人ソーシャルコーディネートかながわ	NPO 伴走支援の勉強会 in 神奈川	オンライン
6月24日	コングラント株式会社	言葉が変わると寄付も変わる～伝わる魅力の見つけ方	オンライン

7月3日	一般社団法人ソーシャルコーディネーターかながわ	組織の自己点検ツール『17の視点』の活用に関する勉強会	オンライン
8月21日	(福)川崎市社会福祉協議会	個人情報管理は今のままで大丈夫？ ～十分な情報セキュリティ対策のために～	総合研修センター（川崎市複合福祉センター ふくふく2階）
9月1日	NECプロボノ倶楽部	かわさきプロボノサミット2025	オンライン
9月5日	NPO法人CRファクトリー	第9回つよあたらアライアンス「“中間支援”がつなぐ、地域と未来」	オンライン
9月9日	公益財団法人かながわ生き生き市民基金	第1回非営利団体サポート学習会「非営利法人会計と法人設立について」	オンライン
9月9日	かながわ県民活動サポートセンターボランティア活動サポート課	ボランティア活動支援施設「CEOミーティング」	かながわ県民センター11階 コミュニティカレッジ講義室
9月30日	リタワークス株式会社	行動につながるキャッチコピーの作り方	オンライン
10月2日	多摩市民館	まちの先生入門講座	多摩市民館4階第1会議室
10月30日	かながわ県民活動サポートセンターボランティア活動サポート課	ボランティア活動支援施設「新任スタッフ研修交流会」	かながわ県民センター11階 コミュニティカレッジ講義室
11月5日	公益財団法人かながわ生き生き市民基金	第2回非営利団体サポート学習会「NPO入門講座～さあ、NPO活動を始めましょう！！～」	オンライン
11月24日	川崎市市民文化局コミュニティ推進部協働・連携推進課	まちのひろばWAプロジェクト交流会	高津市民館第1音楽室・視聴覚室
1月28日	リタワークス株式会社	NPO向け無料セミナー 寄付の反応が悪いのは〇〇が原因？寄付チラシ入門講座	オンライン
2月2日	リタワークス株式会社	NPO向け無料セミナー このバナーってどうつくったの？事例で学ぶバナーデザイン講座	オンライン
2月4日	リタワークス株式会社	NPO向け無料セミナー いつかはうちでも！7ステップで整備するブランドデザイン入門	オンライン
2月10日	川崎市市民文化局コミュニティ推進部協働・連携推進課	「ほっこりポスター～かわさきて人だよ～」から学ぶ地域とのコラボレーション	川崎市役所本庁舎 201・202会議室
9月30日	リタワークス株式会社	行動につながるキャッチコピーの作り方	オンライン

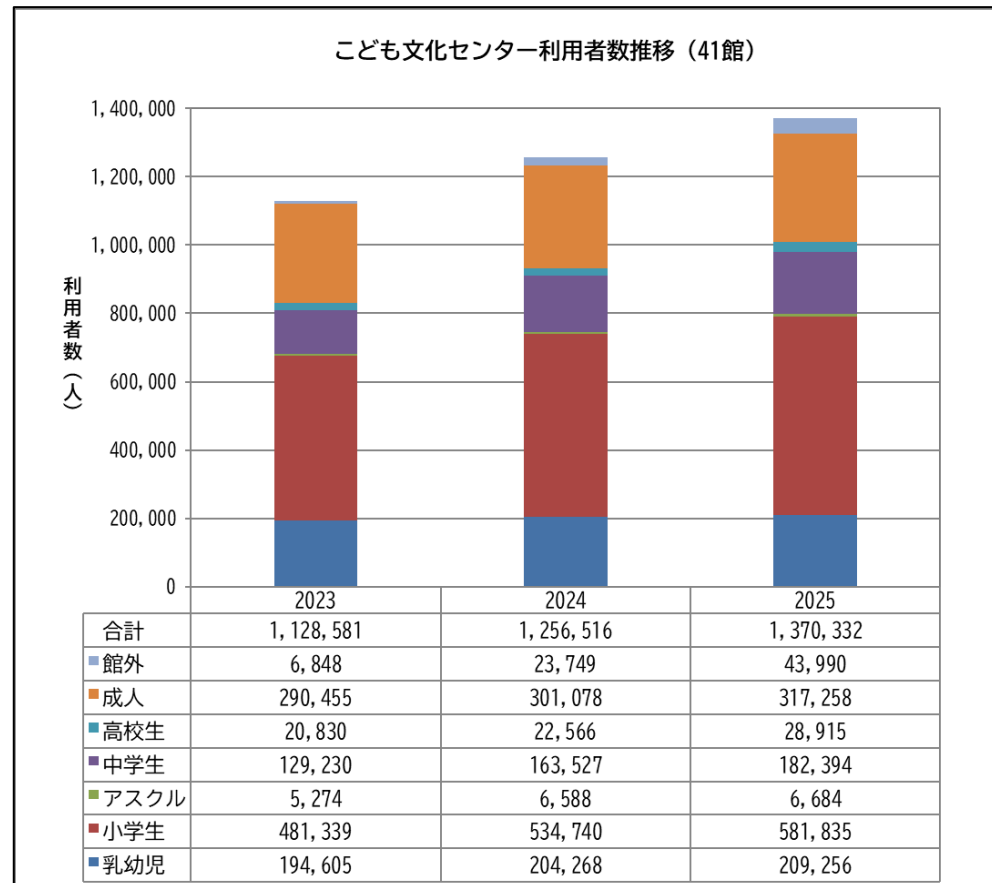
2 青少年健全育成事業

2025年度の主な取組は次のとおりです。これまでの経験と知識を活かし、こども文化センター41館・わくわくプラザ77施設等の適切な管理・運営に努めました。

(1) こども文化センター事業

ア 基本方針

子どもたちの安心安全な居場所の提供を旨とし、遊びや行事等にも工夫を凝らした居場所づくりに取り組むとともに、様々な世代が集まる地域の拠点としての機能の強化にも取り組みました。



イ 運営協議会の設置・運営

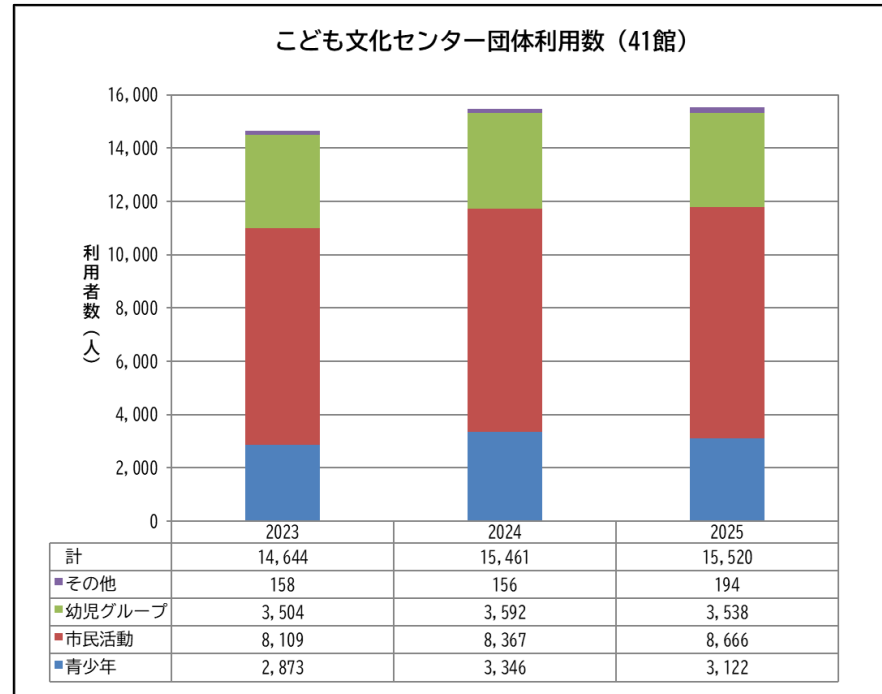
全てのこども文化センターでは、地域と連携した館運営を行うために、地域の方々が委員となった運営協議会を設置しています。運営協議会では、こども文化センターの様々な課題について協議を行い、施設利用のルール作りや地域団体との橋渡しを担うとともに、行事等にも積極的に参画する等、その役割は多岐にわたっています。

今年度は、全館で合計174回（各館平均4.2回）の運営協議会が開催され、延べ1,829名（各回平均11人）の運営委員の方に参加していただきました。また、各館では、運営協議会の委員の方々に多くのご支援・ご協力をいただき、特色ある行事を開催しました。

ウ 地域組織やボランティア等の活動拠点としての場の提供

こども文化センターでは、児童の利用が少ない時間帯について、地域のボランティアや市民活動団体等の方々の活動の拠点として、利用促進に取り組みました。

また、音楽室が設置されているこども文化センター3館については、中学生・高校生のほか、地域音楽活動の拠点として延べ3,622団体、4,934人が音楽室を利用しました。各施設の利用状況については【36頁；別表4】に記載しています。



(2) わくわくプラザ事業

ア 基本方針

日頃から小学校との連携を密にして、子どもたちの様子や学校の月間スケジュール、わくわくプラザの行事日程等の情報交換を行いました。また、子どもたちが、放課後・土曜・長期学校休業日等に安心して楽しく過ごすことができる居場所づくりや、保護者が安心して子どもを託すことができる事業運営に取り組みました。

わくわくプラザ利用状況推移表

種別	2024年度 (76施設)	2025年度 (77施設)	前年度比較 (76施設と77施設での比較)
在校児童数	46,730人	46,076人	▲654人
登録児童数	21,774人	23,058人	1,284人
登録率	46.8%	50.0%	3.2%
利用人数	1,774,152人	1,908,640人	134,488人
1日平均 利用者数	6,055人	6,514人	459人

※ 2025年4月より新小倉小学校わくわくプラザが新設されたため、77施設となりました。

イ 学校において実施する取組との連携

放課後の学校では、「地域の寺子屋事業」「みんなの校庭プロジェクト」等、子どもの学習や運動、体験に関する取組が実施されています。事前にわくわくプラザの活動場所の調整や、双方に参加を希望する子どもの所在確認等の安全面について、学校や事業者等と密に連携して対応しました。

ウ 特別な配慮を必要とする利用者への対応

特別な支援を必要とする児童に対し、より適切な対応が行えるよう、特別支援学校の元教諭や小学校の校長経験者等の巡回相談員を9人配置しました。巡回相談員は、豊かな経験と専門知識を持ち、当該業務に従事するスタッフのアドバイザーとして、またスタッフ研修の講師として活躍しました。

また、学校や家庭との日頃からの連携・情報の共有に努めるとともに、発達相談支援センター・児童相談所・地域療育センター、放課後デイサービス等の関係諸機関との連携強化にも取り組みました。

エ 子育て支援・わくわくプラザ事業

「子育て支援・わくわくプラザ事業」とは、川崎市が実施している事業で、就労等により、わくわくプラザが終了する午後6時までに児童のお迎えが難しい保護者のため、午後7時までわくわくプラザを延長するサービスのことです。当財団は、この業務を川崎市から受託し、全てのわくわくプラザで実施しました。

子育て支援・わくわくプラザ利用状況推移表

種 別	2024年度 (76施設)	2025年度 (77施設)	前年度比較 (76施設と 77施設での比較)
登 録 児 童 数	1,743人	1,800人	57人
延 べ 利 用 人 数	61,160人	59,809人	▲1,351人
1 日 平 均 利 用 人 数	252人	247人	▲5人

※ 2025年4月より新小倉小学校わくわくプラザが新設されたため、77施設となりました。

オ わくわくプラザ昼食配送サービス（モデル実施）

昨年度から開始した「学校長期休業日の昼食提供」については、川崎市と協議を重ねながら、学校休業期間に全77施設でテスト実施を行いました。また、全施設導入に伴い、配送料等は保護者負担として価格改定を行った結果、喫食率は約20%となりました。

(3) こども文化センター・わくわくプラザ共通事項

ア 利用者への意見聴取・事業への反映について

「子どもの権利条約」「川崎市子どもの権利に関する条例」の精神に則り、子どもの意見を尊重し、子どもの視点や意見を運営や地域における活動に生かすため、「子ども運営会議」を開催しました。こども文化センターでは延べ494回（各館平均12回）開催し、延

べ3,152人（各館平均77人）、わくわくプラザでは延べ935回（各施設平均12回）開催し、延べ35,986人（各施設平均467人）が参加しました。会議を通して意見を出し合い、子どもたち自身が行事の企画・運営や、遊びのルール作り等を行うことで、子どもたちとともに施設運営に取り組みました。

また、運営協議会、イベント実施後のアンケート、意見箱等、様々な手法を用いてニーズを収集し、それらを運営に活かしました。

イ 地域人材の育成と活動支援について

子どもたちで組織する「ちいきっず役立ち隊」や、子どもたちの主体性を尊重し「子どもたち自らが地域とつながる活動」に取り組みました。これらの活動を通じて、子ども自身が地域の一員であることを自覚し、地域活動の担い手となるよう育成・支援に取り組みました。

また、こども文化センターでは、中高生世代が行事を企画・運営する機会をつくることでボランティア意識を醸成し、多世代をつなぐ役割を担うことができるよう支援しました。

「ベビー&ティーンズスマイルパーク」「ミライ探検ツアー@新城高校」（新城こども文化センター）



新城高校の生徒が主体的に参画する地域活動を実施しました。乳幼児親子を対象としたプログラム「ベビー&ティーンズスマイルパーク」では、高校生が会場設営や進行、手遊びや運動遊びを担い、親子交流の促進に寄与しました。また、「ミライ探検ツアー@新城高校」では、高校生自らが企画・運営を行い、校内見学を通じて小学生に対し、学校生活や学びの魅力を分かりやすく紹介しました。これらの取組を通じて、生徒の責任感やボランティア意識の醸成を図るとともに、将来的に地域活動の担い手となる人材の育成・支援につなげることができました。

ウ 地域連携・多世代交流の推進

子どもの成長には、「切れ目のない」支援が必要です。学校生活以外の地域社会とのつながりもその一つであり、継続的に地域活動を充実させ、地域活動の担い手を育成することが、次世代の地域活動につながると考え、様々な地域資源（町内会・自治会、学校・PTA、地域団体、地域ボランティア、いこいの家、当財団の市民活動推進課が連携している団体等）や個人と連携し、多世代交流・地域交流の推進に取り組みました。

「とびだせ☆かきのわ」（柿生こども文化センター）



2025年7月、麻生市民館主催「ひとのわフェス」に麻生区内5館が参画したことを契機に、市民館担当者と検討を重ね、麻生区役所地域支援課や麻生台団地・亀井自治会、地域ボランティア等と連携し、学生ボランティアが進行・誘導を担う「かきのわ」を実施しました。一方で移動負担のある高齢者等から参加しにくいとの声があり、関係者の協力のもと2025年度の連携の集大成として、会場を麻生台団地集会所へ移した「とびだせ☆かきのわ」を1月に開催しました。当日は乳幼児親子から高齢者まで250名超が参加し、過疎化してきた団地の賑わいを喜ぶ声も聞かれ、世代や障害の有無を問わず住民がつながる場を創出することができました。

エ 広報

ホームページや「地域版たより」の発行等、これまでの取組を継続するとともに、地域メディアの活用に取り組みました。具体的に

は、かわさきFMで毎月第4月曜日に放送されている『まちかどからお届け』に出演しました。アナウンサーがこども文化センターを訪問し、館の行事予定や活動の様子等が、生放送で伝えられました。

また、その他のメディアについても、各館が積極的に取材や記事掲載の依頼を行うように取り組みを強化し、延べ14件のメディアに掲載されました。掲載実績は【37頁；別表5】に掲載しています。

オ 特徴的な事業の展開

(ア) こどもまんなか大作戦

こども文化センターが、子どもたちにとって、さらに魅力ある施設となり、より一層「居たい」「行きたい」場所となるために、子どもたちから「こども文化センターでやってみたいこと」を募り、子どもたち自身の力で「現実として形に表す」取組として「こどもまんなか大作戦」を展開しました。実施に際して、子ども実行委員会等を組織し、子どもたちが主体的に企画を考え、職員や地域の大人がそれを支援しました。また、これに係る予算を計上することで、実現可能な企画の幅を広げました。

進級記念のたこ焼きパーティー こぶんたこパ！（渡田こども文化センター）



渡田こども文化センターでは、起立性調節障害により登校に困難を抱える渡田中学校1年生を中心に、「進級記念のたこ焼きパーティー『こぶんたこパ！』」を実施しました。企画からSNSでの広報、準備、当日の運営までを子どもたち自身が担い、役割分担をしながら主体的に取り組みました。たこ焼きに加えフライドポテトやベビーカステラなども調理し、後片付けまで協力して行い、参加した15名の結束も深まりました。本活動は、「こどもまんなか大作戦」の理念を体現し、「ここに来ればできる」という自己有用感の向上につながりました。振り返りでは「将来シェフになる」との声もあり、成功体験が将来への意欲を育む機会となりました。

(イ) アウトリーチ事業

近隣にこども文化センターがない地域の公民館や公園等でイベントを開催するほか、地域のまつり等に工作やゲーム・遊びのブースを出店する等、アウトリーチ活動を新規展開し、こども文化センターの役割や機能を子ども、保護者、地域住民、関係機関等へ周知し、地域における認知度の向上に取り組みました。

プロジェクトMK～宮内地区の伝説と歴史を「紙しばい」に～（宮内こども文化センター）



宮内歴史ガイド委員会と連携し、「プロジェクトMK」活動を実施しました。小学生5名の子どもたちが主体となり、宮内地区に残る伝説や歴史を題材に、デザインから着色まで関わりながら、世界に一つだけの紙芝居を制作しました。完成作品は神社の祭りや区民祭など地域各所で、「雨乞いの竜」と「金井観音とお魚屋さん」を上演し、多くの住民に宮内の歴史を伝えるとともに、こども文化センターの認知度向上にもつながる取組となりました。

(ウ) いのちの大切さを伝える事業

子どもたちが発信するSOSを受け止めるだけでなく、自己肯定感や相手を思いやる気持ちを育むために、いのちの大切さを伝える取組を実施しました。具体的には、助産師さんのプレママ（妊婦さん）体験、すげっこふれあい動物パーク（保護動物について）、つくって泊まろう～ダンボールハウスで防災体験～（プログラムの一つとして、震災を題材にした読み聞かせを実施）等を実施しました。

(工) 多様性への理解を深める事業

子どもたちが年齢・性別・障がい・国籍等、多様な人々への理解を深め、相手を思いやり、互いに認め合うことができる豊かな心を育成することを目的に、多様性への理解を深める取り組みを実施しました。

音声ガイドづくり体験（日進町こども文化センター）



日進町こども文化センターでは、同じ階にある視覚障害者情報文化センターとの連携により、音声ガイド付き映画の鑑賞と、音声ガイドづくりのワークショップに参加しました。子どもたちは、視覚障害者が映画を楽しむためには音声ガイドが欠かせないことを学び、実際にガイド制作に挑戦しました。情景や登場人物の動きを言葉で分かりやすく伝える難しさに直面しながらも、試行錯誤を重ね、意欲的に取り組む姿が見られました。制作に没頭するあまり、予定されていた時間だけでは足りず、映画鑑賞後も引き続き取り組む様子が印象的でした。本活動を通して、相手の立場に立って考えることの大切さや、表現する力の難しさ面白さを実感するなど、学びの多い貴重な経験となりました。

(オ) SDGs（持続可能な開発目標）の取組

「川崎市SDGsプラットフォーム」コアメンバー及び「かわさきSDGsゴールドパートナー」として、利用者がSDGsについての理解を深められるよう、17項目の開発目標に沿った事業を実施しました。

収穫祭「ベジッコミルシェ」(南菅こども文化センター)



南菅こども文化センターでは、運営協議会と共催で収穫祭「ベジッコミルシェ」を実施しました。活用に課題のあった敷地内の畑について、5年間にわたり運営協議会や地域住民と菜園活動を行いながら検討を重ね、2025年度はクラブ活動に形を整えて、子どもたちや地域ボランティアとともに栽培した野菜や藍の有効活用を実現しました。

本取り組みは調理行事や食事提供行事のみならず、収穫祭の開催や子どもたちによる藍染め作品の制作・販売を行うフリーマーケットへと発展し、こども文化センターならではの行事を創出するとともに、収穫物を地域へ還元しました。これらの活動は、地域資源の有効活用や持続可能なまちづくり、世代間交流の促進を通じて、SDGsの目標「住み続けられるまちづくりを」および「つくる責任 つかう責任」の達成に寄与するものとなりました。

(カ) 企業との連携促進

企業との連携促進に取り組みました。主な実績は次のとおりです。

企業名	連携内容
ゼンショー従業員組合 ZEAN	すき屋とコラボした食育行事の実施
TVS REGZA (株)	レグザ・サンタプロジェクトと題した大型モニターの継続的な寄贈
(株) 荏原製作所	児童を対象とした工場見学ツアーの実施

ジャパニクス (株)	職員・利用者を対象とした IT リテラシー研修・講座の実施
快活フロンティア	福利厚生を紹介
富国生命保険相互会社	創作漢字コンテストの開催
一般社団法人 エジミウソンファンズ・アジア	サッカー体験教室の実施
株式会社ミライコード	親子向け AI ワークショップの実施

事例① TVS REGZA株式会社

レグザ・サンタプロジェクト(小杉こども文化センター他)



「レグザ・サンタプロジェクト」と題し、TVS REGZA株式会社より大型テレビを継続的に寄贈いただくこととなりました。本件は、市民活動推進課に寄せられた社会貢献活動に関する相談をきっかけに調整を行い実現に至りました。今年度は、こども文化センター8館（旭町、大師、藤崎、殿町、小杉、玉川、大戸、王禅寺）およびわくわくプラザ2施設（稲田、長尾）に寄贈いただきました。

事例② ゼンショー従業員組合会 ZEAN

すき家の牛丼がやってくる！(日進町こども文化センター)



日進町こども文化センターにて、ゼンショー従業員組合会 ZEAN の協力のもと、「すき家の牛丼がやってくる！」を開催し、66名が参加しました。クイズを通して楽しみながら「食」について学び、その後は牛丼などの食事を囲み、子どもたちや保護者、職員が温かく交流しました。企業・地域・子どもたちが「食」を通じてつながる機会となりました。

カ 施設・設備等の維持管理

(ア) 基本方針

老朽化が進んでいるこども文化センターの中には、建替え又は大規模修繕が必要なものがいくつかあります。今後、こうした施設の取扱いについて、市との協議を進めるため、施設設備点検を実施しました。また、消防用設備等点検とあわせ、使用期限をむかえる消火器78本の交換作業を実施しました。

(イ) 大規模修繕

30万円以上の施設・設備の修繕については、所有者である川崎市が行うこととなっていますが、安全・安心の確保や環境整備の観点から緊急度が高い場合については、市と協議のうえ、指定管理者が行っています。今年度は当財団が実施した案件はありませんでした。

(ウ) 小規模修繕・軽工事

30万円未満の施設・設備・用具等の修繕については、指定管理者が行うこととなっています。施設や用具等の安全管理については、日ごろから点検を欠かさず、破損や故障を発見した場合は、迅速に対応しました。

今年度は「エアコン不具合への対応」「水まわり（主にトイレ）」「換気扇」等電機系統を中心に、こども文化センターは157箇所（総額12,061,983円）、わくわくプラザは117箇所（総額8,092,896円）の補修・改修の工事を実施しました。また、簡易的な補修や書棚、遊具棚等の製作においては、現場を熟知している元学校業務職の方々による営繕作業を実施し、迅速な対応を図りました。

キ 安全管理・危機管理

(ア) 基本方針

事故を未然に防ぐとともに、発生後の対応の視点から、各種マニュアルの整備・見直しを行い、状況に応じ適切な対応ができるよう努めました。

(イ) 事故防止対策

遊具の安全確認、適切な見守り配置、子どもたちへの声掛け、準備運動等、様々な取り組みについて定期的に見直すとともに、館長会議や各施設の会議にて、他施設での事故事例を共有し、類似事故の防止対策を検討することにより、本部・各館が一丸となって事故ゼロ運動を推進するとともに、利用児童が怪我を負った場合は「事故対応マニュアル」に基づいて、迅速かつ適切な対応に努めました。

① こども文化センターでの事故について

こども文化センターでは27件の事故が発生し、昨年度より8件減少しました。そのうち13件は集会室でボール遊びをしているところで発生しました。こうした事故を未然に防ぐため、職員の定期的な見守りと声かけを強化するとともに、特に集会室で遊ぶ児童に対しては事前の注意喚起を行うよう徹底しました。

② わくわくプラザでの事故について

わくわくプラザでは165件の事故が発生し、昨年度より56件増加しました。発生率の高い怪我としては、擦傷・打撲68件、骨折（ヒビ含む）23件、捻挫・脱臼等21件が挙げられます。対策として、日々の準備運動や注意喚起を強化するよう指示しました。

③ その他の場所での事故について

わくわくプラザの登下校時の事故は28件でした。児童が退室する際は、気を付けるよう注意喚起をするとともに、一人帰りの児童の保護者に対し、帰宅時間や経路について、児童と一緒に検討していただくよう、迎え時やたよりを通して働きかけました。

(ウ) 防犯対策

各こども文化センターの外側に設置された防犯カメラを活用するとともに、訪問者の目的や様子を把握するため、職員からあいさつ等の声掛けを行い、不審者の侵入を抑制しました。

また、各施設が学校や地域から不審者情報を得た場合は、利用者に注意喚起するとともに、本部を經由して他施設に伝達し、事件・事故の予防に努めました。

(エ) 食物アレルギー事故対策

次の基本ルールを遵守し、子どもたちのアレルギー事故防止に取り組みました。

	対応策
共通	① アレルギーのある児童が差別されないよう、食物アレルギーについての啓発活動に努める。 ② 児童がアナフィラキシーショックを起こした場合に備え、アドレナリン自己注射薬（エピペン）の投与等、応急処置ができるようにアレルギー研修の受講を職員に義務付ける。
こども文化センター	① 当財団が単独で主催する行事等で食物を提供する場合は、事前申込制とし、アレルギーの確認については、児童ではなく、保護者にさせていただくことを基本とする。 ② 共催行事等で、食物を提供する場合は、上記ルールの適用を保護者や関係者の理解を得ながら進める。
わくわくプラザ	① わくわくプラザ登録時にアレルギーのある子どもの保護者に「食物アレルギー調査票」の提出をお願いし、さらにおやつ申込時に、原材料名（成分表）が記載されたメニュー表をもとに、保護者にアレルギーチェックをお願いする。 ② 子どもにおやつを配布するときには、必ず複数の職員が「食物アレルギー調査票」に基づきチェックする。アレルギーとなる成分が入っているおやつについては、当該児童の保護者に手渡す。このとき、おやつが食べられなかった児童には、十分な説明をする。

(オ) 衛生管理

感染症、食中毒等の予防策として、手洗いを励行するとともに、児童の弁当や行事に使用する食品の管理を徹底しました。

(カ) 防災・災害時の対応

災害に備え、毎月、訓練を実施し、避難訓練や防災用品等の点検を行うとともに、災害伝言ダイヤルを活用した連絡手段を利用者に周知しました。

また、わくわくプラザでは、災害時等の対応について小学校と確認し、保護者に対して、連絡、引き取り方法等を周知するとともに、警報等が発令された際には、配信メールシステムを使用して、わくわくプラザの対応を周知しました。

ク 職員・インターンシップ

(ア) 職員の研修体制

役職に応じた研修や、関係法令の改正や利用者ニーズを踏まえた効果的な研修（内部講師による研修や市・他団体実施の研修等を含む）を計画的に実施するとともに、グループ、館ごとに、地域性を重視した研修を実施しました。

また、川崎市や他の団体が主催で行う研修に積極的に参加し、職員のスキルアップや資格の取得を進めるとともに、職員が必要とする研修を効率・効果的に受講できるよう各館に職員ごとの研修受講記録を備えました。

各研修と受講者数については【37～45頁；別表6】に記載しています。

(イ) 教育実習・インターンシップ等への対応

当財団の社会貢献の一つとして、大学からの教育実習生等のインターンシップを8名受け入れました。受入状況の詳細については【45頁；別表7】に記載しています。

【別表 4】音楽室の利用状況

施設名	利用者	2023年度	2024年度	2025年度	前年度比較 (増減)
南河原	小学生	52人	29人	30人	1人
	中学生	138人	202人	71人	▲131人
	高校生	595人	644人	675人	31人
	一般	308人	614人	666人	52人
	合計	1,093人	1,489人	1,442人	▲47人
	団体数	744団体	1,154団体	1,094団体	▲60団体
小杉	小学生	54人	91人	87人	▲4人
	中学生	78人	128人	86人	▲42人
	高校生	149人	400人	538人	138人
	一般	793人	1,055人	1,210人	155人
	合計	1,074人	1,674人	1,921人	247人
	団体数	720団体	1,053団体	1,263団体	210団体
白山	小学生	34人	156人	122人	34人
	中学生	117人	63人	38人	25人
	高校生	338人	258人	72人	▲186人
	一般	1213人	1,338人	1,339人	▲1人
	合計	1,702人	1,815人	1,571人	▲244人
	団体数	1,250団体	1,317団体	1,265団体	▲52団体
計	小学生	140人	276人	239人	▲37人
	中学生	333人	393人	195人	▲198人
	高校生	1,082人	1,302人	1,285人	▲17人
	一般	2,314人	3,007人	3,215人	208人
	合計	3,869人	4,978人	4,934人	▲44人
	団体数	2,714団体	3,524団体	3,622団体	98団体

【別表 5】メディア掲載実績一覧

施設名	メディア・媒体名	行事名または内容
西加瀬こども文化センター	タウンニュース中原区版	「ペンキ塗りで絆深め」
新丸子こども文化センター	タウンニュース中原区版	「わくわくコンサート」
新丸子こども文化センター	タウンニュース中原区版	MARUCO de 学ぼう「多摩川水族館」
北加瀬こども文化センター	タウンニュース幸区版	リユース会
梶ヶ谷こども文化センター	イツコム地モト	こどもまんなか大作戦「こどものおみせやさん」
梶ヶ谷こども文化センター	イツコム地モト	かじっこ工房「SDGs マグ巾着袋」
宮内こども文化センター	タウンニュース中原区版	紙芝居上映会
大戸こども文化センター	タウンニュース中原区版	月見団子づくり
日進町こども文化センター	YOU テレビ	すき家の牛丼がやってくる！
日進町こども文化センター	タウンニュース川崎区版	すき家の牛丼がやってくる！
新城こども文化センター	タウンニュース中原区版	クリスマスツリーを描く「おえかきタイム」
小杉こども文化センター	タウンニュース中原区版	バイオリンコンサート
小杉こども文化センター	神奈川新聞	TVS REGZA 贈呈式
小杉こども文化センター	毎日新聞	TVS REGZA 贈呈式

【別表 6】研修実施状況

①財団主催研修（全市合同）

研修名	講師	対象	参加数	開催場所
新任館長・主査研修	青少年事業課 課長、主幹、職員係長、エリアマネージャー、社会保険労務士	館長 主査	6人	財団本部

新任館長・新任職員研修 (事務研修Ⅰ)	青少年事業課 職員係、事業係、予算係、施設係、人材育成係(係長、主任、職員)	館長 職員	15人	財団本部
新任館長・新任職員研修 (事務研修Ⅱ)	青少年事業課 職員係、事業係、予算係、施設係、人材育成係(係長、主任、職員)	館長 職員	13人	財団本部
新任館長・新任職員研修 (普通救命講習Ⅲ)	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社 中原消防署 職員	館長 職員	29人	中原消防署
新任館長・新任職員研修 (フォローアップⅣ)	青少年事業課 主幹、人材育成係(係長・主任) 予算係(主任) エリアマネージャー(係長・主任)	館長 職員	15人	財団本部
新任わくわくプラザ担当者 運営研修	青少年事業課 職員係、施設係、人材育成係、エリアマネージャー	職員 主査	11人	財団本部
新任館長運営研修	青少年事業課 主幹、人材育成係(係長)、エリアマネージャー	館長	2人	財団本部
在籍期間別研修	青少年事業課 主幹、人材育成係(係長)、エリアマネージャー	主任 職員	16人	財団本部
主任研修 (本部体験研修【全体説明】)	青少年事業課 職員係、事業係、予算係、施設係、人材育成係(係長、主任、職員)	主任	11人	財団本部
主任研修 (新任研修体験談発表)	青少年事業課 エリアマネージャー	主任	2人	財団本部
館長研修会「地域とのつながり づくりの可能性について」	NPO 法人れんげ舎代表理事 長田 英史氏	館長	48人	総合自治会館 ホール
館長研修会「川崎フロンターレ 流 組織作りとコミュニケーション」	株式会社川崎フロンターレ アカデミー 地域担当コーチ兼スクールアドバイザー 藤原 隆詞氏	館長 主査	49人	総合自治会館 ホール

こども文化センター担当職員 運営研修	青少年事業課 主幹、人材育成係（係長）、エリアマネージャー	職員	15人	財団本部
事故対応研修「事例検討～児童 虐待について」	社会福祉法人子どもの虐待防止センター理事 日野・子どもと家族法律事務所 弁護士 木村真実氏	館長 主査 主任 職員 臨時職員	1,670人	オンライン （各こども文 化センター）
JUMP-JAM スタッフトレーニング研修	一般財団法人 児童健全育成推進財団	主査 主任 職員	15人	横浜 BUNTAI
JUMP-JAM トレーナートレーニング研修	一般財団法人 児童健全育成推進財団	主査 主任 職員	2人	ナイキ ジャパン 麻布子ども 中高生プラザ
お出かけ企画 第2弾 ～好事例から学ぼう研修～	ちがさき・さむかわ こどもファンド 審査会	館長 主任	13人	茅ヶ崎市役所 分庁舎 6階 コミュニティー ホール
館長・職員対応研修 映画「大きな家」上映会	株式会社 PARCO	課長 主幹 係長 主査 職員 臨時職員 （地域住民）	13人 （72人）	総合自治会館 ホール

②財団主催研修（グループ単位）

実施単位	研修名	講師	対象	参加数	開催場所
川崎区 第1G～3G	川崎区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	31人	日進町こども 文化センター

川崎区 第1G～3G	川崎区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	29人	旭町こども 文化センター
幸区 第1G・2G	幸区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	30人	下平間こども 文化センター
中原区 第3G	食物アレルギー研修	NPO 法人アレルギーを考える母の会 代表理事 長岡 徹 氏	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	66人	平間こども 文化センター
中原区 第1・3・4G 高津区 3G	アサーション・トレーニング ～自分も相手も大切にしたい自己 表現～	埼玉大学 名誉教授 株式会社日本・精神技術研究所認定 アサーショントレーナー 沢崎 俊之 氏	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	98人	中原市民館 多目的ホール
中原区 第1・3・4G	中原区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	29人	大戸こども 文化センター
中原区 第1・3・4G	中原区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	30人	平間こども 文化センター
高津区 第3G	高津区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	25人	梶ヶ谷こども 文化センター
多摩区 第1・2・3G	バルーンアート	高橋 幸司 氏	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	46人	三田こども 文化センター
多摩区 第1・2・3G	多摩区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	22人	三田こども 文化センター
多摩区 第1・2・3G	多摩区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	24人	南菅こども 文化センター
多摩区 第1G	モルック研修	長尾こども文化センター 館長 中川路 ふみ子	館長、主査、主任、 職員	9人	長尾こども 文化センター

多摩区 第2G	接遇・業務マニュアル確認研修	巡回相談員 山本	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	44人	錦ヶ丘こども 文化センター
多摩区 第2G	衛生研修	巡回相談員 佐藤 治恵	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	16人	錦ヶ丘こども 文化センター
多摩区 第2G	他施設交換研修	錦ヶ丘こども文化センター 三田こども文化センター (主任・職員)	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	34人	南生田小学校 わくわくプラザ 生田小学校 わくわくプラザ 三田小学校 わくわくプラザ
多摩区 第2G	「他施設交換研修」 振り返り研修	錦ヶ丘こども文化センター 三田こども文化センター (館長・主任・職員)	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	15人	錦ヶ丘こども 文化センター
多摩区 第3G	工作研修	菅こども文化センター 中野島こども文化センター 南菅こども文化センター (職員・臨時職員)	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	42人	菅こども 文化センター
多摩区 第3G	アレルギー研修	巡回相談員 佐藤 治恵	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	30人	菅こども 文化センター
麻生区 第1G～3G	アナログゲーム 療育講座	アナログゲーム 療育アドバイザー 松本 太一氏	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	71人	麻生市民館 大会議室
麻生区 第1・2・3G	麻生区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	31人	千代ヶ丘こども 文化センター
麻生区 第1・2・3G	麻生区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	29人	麻生こども 文化センター
麻生区 第1G	要対協研修	麻生区役所 地域みまもり支援センター 職員6名	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	19人	百合丘こども 文化センター

麻生区 第1G	危険予知研修	東百合丘こども文化センター 館長 谷本真由美	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	22人	百合丘こども 文化センター
麻生区 第3G	新江の島水族館下見研修 (野外・館外活動研修)	麻生こども文化センター 館長 梅田 晴美	館長、主査、主任、 職員	6人	新江ノ島水族館
麻生区 第3G	ドッジボール大会 事前研修	麻生こども文化センター 館長 梅田 晴美 白山こども文化センター 館長 釜田 佳代子	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	4人	麻生小学校 体育館・ PTA室

③川崎市主催研修

研修名	講師	対象	参加数 (内オンライン)	開催場所 (オンライン会場)
第1回 特別な配慮が必要な児童への関わり方(初級) 外国につながる子どもの支援	学校法人三幸学園 こども専門学校専任講師 兼 社会福祉法人友愛会 理事長 橋本講師	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	252人 (232)	生涯学習プラザ (各こども文化センター)
第2回 一般的資質 児童健全育成論	日本子育て学会 常任理事 兼 日本心理職協会・現代QOL学会 理事 黒米講師	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	195人 (180)	生涯学習プラザ (各こども文化センター)
第3回 一般的資質 アンガーマネジメントによる感情の理解	学校法人三幸学園 こども専門学校専任講師 兼 社会福祉法人友愛会 理事長 橋本講師	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	342人 (328)	生涯学習プラザ (各こども文化センター)
第4回 一般的資質 性被害と暴力・暴言の防止	学校法人三幸学園 こども専門学校専任講師 兼 社会福祉法人友愛会 理事長 橋本講師	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	258人 (244)	生涯学習プラザ (各こども文化センター)
第5回 一般的資質 職員同士の関係性の構築	日本子育て学会 常任理事 兼 日本心理職協会・現代QOL学会 理事 黒米講師	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	205人 (186)	生涯学習プラザ (各こども文化センター)

第6回 子どもの育成支援 (初級・中級) いじめ等の理解と対応	学校法人三幸学園 こども専門学校専任講師 兼 社会福祉法人友愛会 理事長 橋本講師	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	196人 (188)	生涯学習プラザ (各こども文化センター)
第7回 野外活動(野外での火気取り扱い等)	日本子育て学会 常任理事 兼 日本心理職協会・現代QOL学会 理事 黒米講師	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	36人	黒川青少年 活動センター
第8回 室内・室外での遊びや体験活動を通じたコーチング	日本子育て学会 常任理事 兼 日本心理職協会・現代QOL学会 理事 黒米講師	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	39人	黒川青少年 活動センター
第9回 アレルギー対応(エビペン実習を含む)	食戦力すまいる株式会社 代表取締役 管理栄養士 中村講師	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	50人	生涯学習プラザ
第10回 子どもの権利	学校法人三幸学園 こども専門学校専任講師 兼 社会福祉法人友愛会 理事長 橋本講師	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	120人 (110)	生涯学習プラザ (各こども文化センター)
第11回 特別な配慮が必要な児童とその保護者への理解と支援	日本子育て学会 常任理事 兼 日本心理職協会・現代QOL学会 理事 黒米講師	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	118人 (107)	生涯学習プラザ (各こども文化センター)
第12回 LGBTQ	日本子育て学会 常任理事 兼 日本心理職協会・現代QOL学会 理事 黒米講師	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	112人 (105)	生涯学習プラザ (各こども文化センター)
第13回 特別な配慮が必要な児童への関わり方	日本子育て学会 常任理事 兼 日本心理職協会・現代QOL学会 理事 黒米講師	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	114人 (114)	生涯学習プラザ (各こども文化センター)
第14回 児童虐待	日本子育て学会 常任理事 兼 日本心理職協会・現代QOL学会 理事 黒米講師	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	103人 (99)	生涯学習プラザ (各こども文化センター)

第15回 通信・便りの工夫	学校法人三幸学園 こども専門学校専任講師 兼 社会福祉法人友愛会 理事長 橋本講師	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	32人 (26)	生涯学習プラザ (各こども文化センター)
第16回 保護者・家庭との連携	学校法人三幸学園 こども専門学校専任講師 兼 社会福祉法人友愛会 理事長 橋本講師	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	68人 (58)	生涯学習プラザ (各こども文化センター)
第17回 中高生への関わり方	日本子育て学会 常任理事 兼 日本心理職協会・現代 QOL 学会 理事 黒米講師	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	58人 (54)	生涯学習プラザ (各こども文化センター)
第18回 学校や地域との連携	学校法人三幸学園 こども専門学校専任講師 兼 社会福祉法人友愛会 理事長 橋本講師	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	33人 (31)	生涯学習プラザ (各こども文化センター)
第19回 地域施設や組織の理解と連携の 工夫	学校法人三幸学園 こども専門学校専任講師 兼 社会福祉法人友愛会 理事長 橋本講師	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	32人 (26)	生涯学習プラザ (各こども文化センター)
第20回 地域施設と組織の連携の工夫 (事例研修・グループワーク)	学校法人三幸学園 こども専門学校専任講師 兼 社会福祉法人友愛会 理事長 橋本講師	館長、主査、主任、 職員、臨時職員	13人 (8)	生涯学習プラザ (各こども文化センター)

④資格取得研修

研修名	講師	対象	取得者数	開催場所
児童厚生員等基礎研修会（児童厚生2級）	一般財団法人 児童健全育成推進財団	職員	12人	TOC 有明 Convention Hall
児童厚生員等基礎研修会（児童厚生1級）	一般財団法人 児童健全育成推進財団	館長・主査	11人	秋葉原 UDX
神奈川県放課後児童支援員認定資格（1期）	(株)東京リーガルマインド	館長、主任、 職員、臨時職員	22人	横浜技能文化会館 オンライン (各こども文化センター)

研修名	講師	対象	取得者数	開催場所
神奈川県放課後児童支援員認定資格（2期）	(株)東京リーガルマインド	館長、主任、 職員、臨時職員	22人	横浜技能文化会館 オンライン (各こども文化センター)
神奈川県放課後児童支援員認定資格（3期）	(株)東京リーガルマインド	館長、主任、 職員、臨時職員	7人	横浜技能文化会館 オンライン (各こども文化センター)
神奈川県放課後児童支援員認定資格（4期）	(株)東京リーガルマインド	館長、主任、 職員、臨時職員	12人	横浜技能文化会館 オンライン (各こども文化センター)
防災管理新規講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館長	1人	おだわら市民 交流センター
甲種防火管理者講習会	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館長	2人	おだわら市民 交流センター
甲種防火・防災管理新規講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	主査	1人	かわさき保育会館
衛生推進者養成講習	一般財団法人 安全衛生マネジメント協会	主査	1人	産業貿易センター

【別表 7】 教育実習等の受入状況

依頼学校名	人数	実習場所	実習期間
共立女子大学	2人	錦ヶ丘こども文化センター	12日
		三田こども文化センター	12日
有明教育芸術短期大学	2人	新城こども文化センター	12日
		日進町こども文化センター	12日
東京家政大学	1人	平間こども文化センター	11日
東京福祉大学短期大学部	1人	長尾こども文化センター	12日
田園調布学園大学	2人	中野島こども文化センター	12日
		百合丘こども文化センター	12日

3 法人の運営

2010年に公益財団法人としての認定を受け、その後、効果的な公益目的事業の実施と法人としての役割・機能が発揮できる組織づくりを本部と現場が一体となって取り組みを進めてきました。また、2025年4月からの認定法改正による柔軟な制度運用に対応しながら、効率・効果的な法人運営に努めてまいりました。

ア 業務・組織改善の取組

法人全体の業務改善に取り組むとともに、事業計画の進捗管理を着実にを行い、適切な入札制度等により、コスト削減や効果的な事業の実施等を通じて、経営基盤の強化を図り、組織の総合力向上に努めました。組織としての一体感の醸成や職員のスキルアップを図るため、各種研修等を実施するとともに、組織の課題整理や「中長期基本計画」の策定など改革に向けた取り組みを通じて、職員の意識改革の促進と人材育成にも取り組みました。

イ 財務業務の適正運営の取組

経理・会計処理においては、適正な会計処理の継続的な実施に向け、各課に周知徹底を図りながら専門家等のアドバイスを受け、経理事務の改善を推進すると共に、安定した公益財団法人の経営を維持するために適切な財務管理を実施しています。また、大師コミュニティセンターの受託や会計事務効率の観点から、「会計区分」を統合するとともに、自主財源の確保に向けて「収益事業会計」設置の準備を進めました。

ウ その他

2024年度の事業報告書等の提出については、関係書類等を作成し監事監査を経て、理事会及び評議員会（定時評議員会）での承認を受け、2025年6月27日に行政庁(神奈川県)へ報告しました。なお、関係書類等については本法人の事務所に備え置くとともに、貸借対照表を公衆の見やすい場所に掲示しました。2026年度の事業計画書及び収支予算等は、第3回理事会で承認を受け、2026年3月29日に行政庁に提出しました。